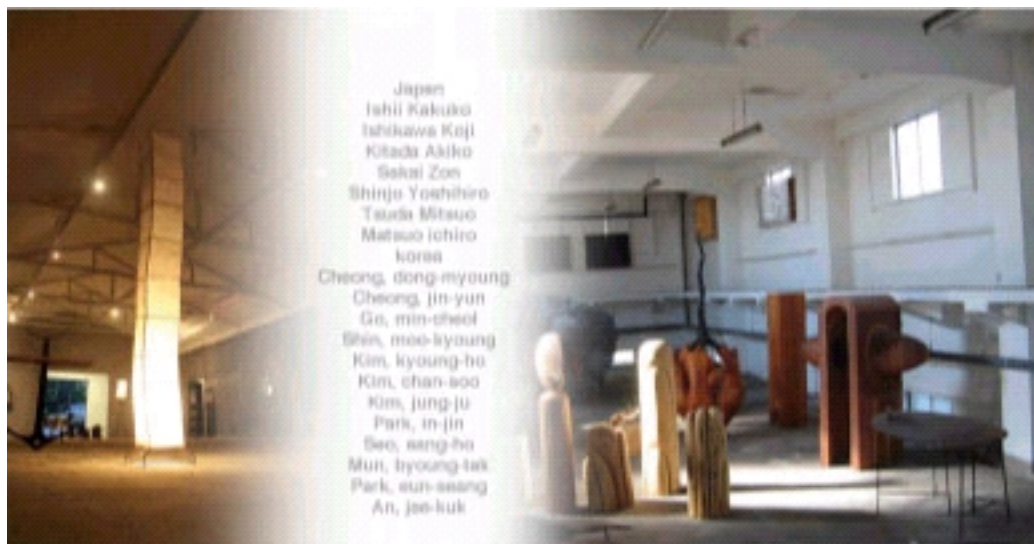


「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」



Artinori & Art Space Chiyofuku Project

2006. 2/18 - 2/27 .open(work shop): 2/18(sat.) pm 5

Report of 「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」

2006 2.17 ~ 2.19

1日目(2/17)

石井、北田、坂井、新庄、津田の5名は、2月17日に福岡を出発しプサンへ、まずはキムさんの Craft story ギャラリーに、挨拶もそこそこオリへと出発、自動車にて約1時間、プサンの北東部オリギャラリーへと到着しました。(キムさんの話ではプサンから、約30キロと言うものの、体感的にはもっとあるかもしれません。)

早速、オリのメンバーの協力のもと、梱包を開き、現地制作を含めた作品の設営に取りかかりました。



水をえたかのようにチェーンソーをふるう新庄さん

ブロックを積み枯れ草を集める坂井さん、素材探しや展示台の塗り直し、作品の仕上げまで約二時間の作業で作品7点の設営を終えることができました。



完成した新庄さんの作品、ギャラリー入り口横の展示スペースに設置されました。

後はオリのメンバーの設営へとバトンタッチ。天気は良いものの、最低気温は-2度とかなりの冷え込みでした。



設置作業をするキムさん達。以下の写真は設置されたオリの作家の作品



Cheong dong-myung



Perk in-jin



Cheong jin-yun



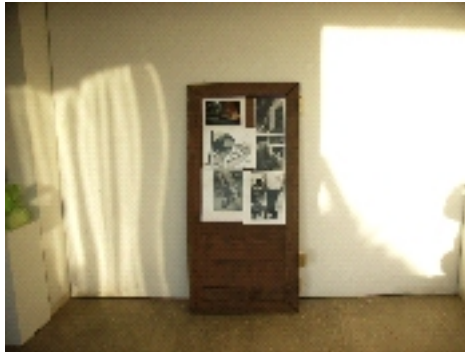
Shin moo-koung



Perk eun-seang



An lae-kuk



スタジオ内にある Kim Chan-soo の写真作品 エントランス Go min-cheol の寄せ木のイス

夕食は、ギャラリー少し離れたところにある食堂でキムさんとオリの地主でもあるメンバーのチョンさんらと会食、翌日の日程の打ち合わせをしました。写真はパクさん。(奥に向かって津田、キムさん)



食後はギャラリー近くの陶芸作家キムさんのお宅を訪問、オリのメンバーと合流してお茶会となりました。野菊のお茶がおいしい、少々言葉が通じなくとも和やかな気分。



その後はオリのメンバーのスタジオ巡り、各自の個性が現れているスタジオの様子、それぞれの作品に向かう姿勢を感じる。

再度ギャラリーに戻って各自展示の確認、一通り体裁が整ったコンクリートブロックの空間は思ったよりも暖かい雰囲気になっていました。



Kim kyong-ho



Kim jung-ju



エントランスから見たギャラリー



手前から松尾さん、石川さん、シンさんの作品

左の写真は、エントランスから奥にむかうの作品のレイアウト、右の写真は入ってすぐ左側の壁沿いに並ぶ石川さん松尾さんの作品の様子。夕方にペンキを塗り替えた作品台はもう乾いていたのだろう、オリのメンバーの手によって設置されていた。



ひと通り作品の設営が終わったギャラリー内部、しんと冷え込む22時過ぎのギャラリー、寒さのためややダウン気味の千代福メンバー、キムさんの車でオリを後にする。
23時にはプサンに戻り、ホテルにチェックイン、1日目を終了。みなさんお疲れさまでした。

2日目 (2/18)

キムさんシンさんと朝食後、プサン市内のオルタナティブのギャラリー、「Space bondee」とオリのメンバーでもあるウンテクさんがオーナーの「Eum tae-ik Gallery」へ、ウンテクさんが合流し最後は「Soul Art」を訪ねる。古道具屋、食事と道草しつつアートインオリへ。ギャラリーでは、オリのメンバーの手でオープニングの準備が進められていた、入り口に張られた展覧会のポスターそしてソウさんの大きなズボン等の作品が揃っている。



展覧会のポスター



Seo sang-ho



Mun byoung-tak



オープニングの準備の整ったギャラリー内部

会場中央に据えられたムンさんの作品は、置いてある木槌で叩くと、ゴワンゴワンと音ができる。右側奥のコーナーに見えるのは、坂井さんのインスタレーション、手前壁面は石井さんの作品。



展示の最終確認の後、昨年おみやげをいただいた陶芸家のパクさん宅にて釜山日報のインタビューを受ける。

インタビューに引き続きオープニングの打ち合わせをバタバタとこなし、ギャラリーに戻る。すでに20名ほどの関係者を含めた観客が来ていた。半数は昨年以来の顔ぶれ、しばしの談笑の間もなく来客の対応に忙しい。



17時過ぎ、いよいよ「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」（交流展）のオープニングイベントがスタートした。



作家のソさんの進行により、ソさん、新庄さんのオリと千代福それぞれの代表による挨拶、作家紹介やオリや作品に対するコメントに続き、オリの過去の作品展を振り返るスライドショー、津田の作品によるパフォーマンスでオープニングは終了。

パフォーマンス終了後、作品である羽根のかたちのペーパーナイフ（15本）は、オリの作家それぞれにプレゼントされた。また新庄さんが制作した楠の木玉（15個）もオリのメンバーにひとつずつ手渡された。



左の写真は、津田と翼に見立ててジャケットに取り付けられたナイフを手取るソさん。
右の写真は、木玉のサインを求められる新庄さん。「プレゼントはもうないの？」との声もあり、もう少し数に余裕があったら良かったなと思うことしきり・・・。

パーティーがスタートし、テーブル一杯の手料理とテジカルピの香りにみな酒が進む、オリのギャラリーの周りに広がるほのぼのとした田園の風景がゆっくりと夕焼けに染まる。オープニングを訪れたお客さん達と、自己紹介にはじまり、展示した作品を目の前にして話し込む……。のんびりとした雰囲気の中、パーティーは3時間ほど続いた。



オリの作家やその知人、釜山やソウルの作家やギャラリー関係者の30名ほどのお客さん達とオリで出会えたことに心から感謝。

ギャラリーでのパーティー終了後、メンバーやスタッフ全員でプサンに移動、キムさんの先輩の経営するお店にて、まずは絵画のチョン先生の挨拶で乾杯、飲みながら今後の計画や方針についての話し合う。

キムさんとこの春から九州大学の大学院生になるムンさんの力を借りて、今後の運営をはじめ今年8月の交流展の具体的な内容に踏み込んだ話し合いが1時間ほど続いた。

「今年の8月の交流展は、千代福にて現地制作作品の展示をおこなうものとする。」

「来日するメンバーや現地での制作方法、期間、宿泊等については、今後、話し合いによって決めるものとする。」

の以上の2点がオリと千代福のメンバー間で確認されました。

またオリのメンバーではないにもかかわらず、これまでオリとの交渉でいろいろと間に入って翻訳や連絡に骨を折ってくださったキムさんに、オリと千代福の両方から感謝の意を表して拍手が送られた。

「キムさんお疲れさまでした、本当にありがとうございました。」

キムさんとは、これまで以上に親しい作家として良い関係を続けて行くことができるならばと思います。

今後のオリと千代福の連絡等は、オリ側はシンさん、千代福側は津田が窓口となることにしました。

全ての予定を終了して24時過ぎに解散、オリのメンバーと別れを惜しみつつホテルに帰着く。「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」のオープニングの長い一日が終わった。

ギャラリーを訪れてくださった観客、そして参加してくださった作家やスタッフのみなさん、ほんとうにありがとうございました。そしてほんとうにお疲れさまでした。

平成18年2月19日12時40分(福岡着)帰福

「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」

「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」

2006. Feb.18th ~ Feb.27th

ARTINORI Gallery

zip 619-951 ori465 Jang-an Gi-jangGun

Busan.Korea

参加作家

韓国側 ARTINORI メンバーリスト

1. Cheong dong-myung -立体 木材 プラスチック ミクストメディア
2. Cheong jin-yun -立体 エントランス横の翼のモチーフ付き金属作品(ペイント)
3. Go min-cheol -立体 木材 寄せ木によるファニチャー
4. Shin moo-koung -立体 鉄 溶接 タップを踏む木靴の kineticart (彫刻)
5. Kim kyong-ho -立体 竹 紙 竹と紙による Mobile (彫刻)
6. Kim Chan-soo-ドキュメント モノクロプリント(写真)
7. Kim jung-ju -立体 シュレッダー紙片 リサイクルアート(ミクストメディア)
オリメンバー外からの参加
8. Park in-jin -立体 韓紙 木 エントランス ハエの造形(ペイント)
9. Seo sang-ho -立体 韓紙 エントランスのズボンの造形(ファイバーワーク)
10. Mun byoung-tak -立体 木 鉄 中央の大きな木の造形(彫刻)
11. Park eun-seang -立体 鉄 溶接 エントランス照明の造形(彫刻)
12. An jae-kuk -立体 金属 ワイヤー編み込み(テキスタイル)

(以上出品作家12名)

13. Eum tae-ik -立体 鉄 溶接(彫刻)
14. Park ju-feel -立体 陶・ceramic
15. Goo kyung-chan -立体 陶・ceramic

アートイン・オリの住所

ARTINORI (アートインオリ)

zip 619-951 ori465 Jang-an Gi-jangGun

Busan.Korea

日本側 アートスペース千代福 メンバーリスト

1. Ishii kakuko 石井香久子 -立体 和紙・ファイバー (テキスタイル)
2. Kitada akiko 北田明子 -平面 (ペイント)
3. Sakai zon 坂井 存 -立体 ゴム (インスタレーション)
4. Shinjo yoshihiro 新庄良博 -立体 ウッド (彫刻)
5. Tsuda mitsuo 津田三朗 -立体 鉄 溶接 (彫刻 パフォーマンス)

(以上現地 Opening 参加作家 5 名)

6. Ishikawa koji 石川幸二 -立体 ウッド・ミクストメディア (彫刻)

* 今回作品のみ参加

7. Matsuo ichiro 松尾伊知郎 -立体 陶・ceramic (彫刻)

* 今回作品のみ参加

アートスペース千代福の住所

ART SPACE 千代福

〒830-0072 久留米市安武町安武本 2025

Tel / +81-942-53-2155

以上で今回の「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」日韓交流展のレポートを終えたいと思います。しかし、今回の参加作家のみならず、多くの人たちの支えやご尽力があってはじめて、今回の展覧会の実現へと至ることができたことを最後に付け加えておきたいと思います。

特にアーティストであり、キュレーターでもあった Kim jung-ju 氏には、今一度感謝をしたいと思います。また昨年第一回交流展の会場であった「アートスペース千代福」のオーナーである野口さんにも、感謝するとともに、今後も我々を含む韓国、両国の作家活動に対するよりいっそうのご理解をお願いしたいと思います。

「アートスペース千代福」メンバー一同

文責 津田三朗

「Artinori & Art Space Chiyofuku Project」

Published by Art Space Chiyofuku